


ホッとコーヒーはいかがですか?

今回は、2月と3月に開催された京都私立病院協会主催の『病院清掃における新型コロナウイルス感染防止対策研修会』で『一般清掃と病院清掃の違い』をテーマに講演された森 貞文氏(京都ビルメンテナンス協会 理事、(有)まこと美装 代表取締役)と、『日本赤十字社京都第二赤十字病院 ホスピタル・メンテナンス(株)との取り組み』と題して講演されました高橋政則氏(ホスピタル・メンテナンス(株) 代表取締役)にお越しいただきました。

 **南部** 研修後の参加者アンケートを見たのですが、すごい好評でした。特に、高橋社長の病院での取り組みの内容がとても参考になったと。



森 この問題に関しては、我々清掃業に携わる者がレッドゾーン清掃の知識や技術を習得すれば解決、というわけではなくて、病院側として

しっかりコミュニケーションをとって「協働」という形でやっていかないとダメだと思っています。それを見事に実践されているのが日本赤十字社京都第二赤十字病院(以下、第二赤十字病院)と高橋社長のホスピタル・メンテナンス(以下、ホスメン)だと思うんです。

高橋 よく「(コロナ病棟に入ること)怖くない?」と聞かれるんですけど、僕自身は全然怖くありません。5年前に病院内でMDRA(多剤耐性アシネトバクター)院内感染の問題が起こって、そこで僕らは徹底的に原因を追究して、改善策を協議して、ありとあらゆることを変えてきた、その経験があるから。

南部 協議というのはどういうメンバーで行うんですか?

高橋 感染制御部のドクターや看護師、病院の総務課厚生係、僕らホスメン、それに外部から環境衛生士。研修会で一緒に講演させてもらった感染制御部の看護師 近藤さんともその時から何でも話せる関係になりましたね。

南部 それまではどんな関係だったんですか?

高橋 普通に挨拶する程度(笑)

南部 講演内容の資料を見せてもらったんですが、マニュアルもすごいですね。トイレ清掃もきっちり図解、写真付きで、細かくて、私でもできそうです。もう絶対この通りにやる!って感じなんですね。

高橋 そうそう。もうその通りにやってもらおう。MDRAの問題が起こって、そこで僕らは目に見えない菌やウイルスと戦っ

ているって意識した時に、見た目がきれいだから今日は拭かなくていいわ〜と、手を抜くようなことは、もう絶対にしたらあかんし、見逃したらあかん、と。従業員さんには完全にマニュアル通りにやってもらわないと。そして、僕らはそれをきっちり、チェックすることも大事。環境衛生ラウンド(院内の清掃チェック)は月に2回行っただけど、感染制御部の看護師、病院の総務課厚生係、ホスメンの僕、この3者で必ず行う。

南部 清掃のチェックだから高橋社長だけでラウンドするのかと思ってたら、違っんですね。

高橋 そこは病院側にもきっちり見てチェックしてもらおう。そうでないと何か問題が起こった時お互い「見てない」「わからない」では済まないからね。MDRAの時に、本当に全てが変わった。病院側も僕らも、手探り状態。とにかく何とかしなければならぬ、どうすれば終息させることができるのか、と。

南部 今の新型コロナウイルスの状態のようですね。

高橋 そう。僕はホスメンとして病院清掃を受託している以上、あの時NOという選択肢はなかった。レッドゾーンに入ることをね。新たなマニュアルを作り、使用する道具を変え、管理の方法も変え、清掃用洗浄消毒剤も中央で一括管理し、濃度や品質を保った。誰が使っても、安全でしっかり消毒の効果も出るように。これら全ては病院の協力がなかったら出来なかったこと。あの研修会に参加していた同業の皆さんや病院関係者の方に一番伝えたいことは、清掃のことは清掃業者だけで考えろ、じゃなくて、一緒に考えてください、マニュアルひとつにしても、その病院で、その現場で、しっかりコミュニケーションとって、共に考え戦ってください。僕たちはこうして病院清掃を見直しました。だから皆さんもそうしてください、そういうことなんです。

森 清掃業者に「やってね」だけでは絶対に上手くないんじゃないですか。病院側との二人三脚で作り上げていくもの。その為に、いかに普段からのコミュニケーションが大切かってことですよ





ね。これが難しい。

南部 高橋社長のところはすごい信頼関係ができてますね。

高橋 今は本当にありがたいことに。最初はやっぱりいろいろありましたよ。

当時、改善策を講じている中で、ウェスを使い回しせず一部屋ずつ交換するというので、急に洗濯物が増えた。それを干す場所を確保しないと、と思い、総務課に屋上の一角を借りれないか聞いてみた。でもその返事がなかなか来なかった。すると、その事を知った感染制御部のドクターが総務課に怒鳴り込み、「これはホスメンの為じゃない！！患者さんの為なんですよ！！」と。この人すごいな、と感動した。その時の「患者さんの為」という言葉が、完全に自分の意識の中に根付いて・・・僕らは単に清掃しているだけではない、患者さんの命を守ってるんや、と。

森 業務として清掃をしているわけではなくて、その先に患者さんや利用者さんの衛生と環境を守る、本来はそれが根底にあるはずなんです。見失いがちなんですが、きれいにする、つやを出すなんてことはおまけの話なんですよね。

高橋 オペ室のマニュアルを変えた時の話。先生に「オペ室の床、つや、必要ですか？」と聞いて、仕様書の変更をした。ワックスの回数を減らし、その代わりに表面洗浄の回数を増やした。何が本当に必要なのか。現場それぞれで変わってくる。見えないけれど、日常清掃では血液を拭きのぼしている、それを定期的にしっかり洗浄することの方が優先なのではないか。また、オペ室は特に触っている機械、触れてはいけないコードなど、独特のルールがある。たまにしか入らない定期清掃班にそれを指示するのではなく、普段から入っているオペ室のスタッフに、定期清掃の技術を覚えてもらった。オペ室に関しては分業ではなく、スペシャリストを育てることにした。さらに、作業する細かい導線までマニュアル化した、徹底的に。すると、拭きムラや拭き残しは劇的になくなった。

南部 すごい改革ですね！

高橋 でも最初から完璧に出来たわけではないよ。むしろ、従業員の意識改革のほうが大変だった。病院清掃が他の商

業施設と違うのはただ掃除するだけじゃなく、間接的に人の命をあずかっている、ということ。その意識がなければ絶対にやっていけない。正直、「業者変えたら？」なんて悔しい言葉を聞いた時もあった。MDRA の問題の時に僕らはこれだけ悩んで四苦八苦してやってきた経緯があるから、コロナの問題が起こった時、まだコロナがどういうウイルスかもわからない時でも、全然動じることはなかった。今までやってきたことをやれば、絶対に大丈夫だ、そういう自信があった。

南部 なるほど。新型コロナは2020年1月に神奈川県内で初の感染例が確認されたわけですが、第二赤十字病院ではいつから受け入れされたんですか？

高橋 2020年4月上旬ですね。協議の上、病院側は重症患者の日常清掃を担当、我々は退室時の清掃及び中等症の日常清掃を担当、という風に2社でしっかり作業分担をしました。で、最初の1ヶ月は僕が一人で担当しました。

南部 え！社長自ら、一人ですか！？

高橋 そりゃそうでしょう！従業員を、何かわからない危険にさらすわけにはいかない。自らやってみて、こうやってきっちりやれば安全なんや、って体張って証明しないと！

南部 すごいですね！流石ですね！

森 こんな風に、胸張ってビルメンテナンスの仕事やってみて言える人、自分の家族がビルメンテナンスの仕事してまして胸張って言える人がどれくらいいると思います？ほんと、頼もしいです！

南部ほんと、頼もしい！

高橋 そりゃ、キムタクと生年月日一緒やからそれぐらい当然です！！

南部 そこ！？(笑)



Café 高橋社長、森理事、胸が熱くなるお話をありがとうございました！今後、このwithコロナの時代に協会が何をすべきなのか、いろいろ考えさせられました。ほんとうにありがとうございました。事務局 南部 翼

こちらが当時の感染制御部 部長の下間ドクターが感染対策の三本柱を描いたイラスト。そのひとつに「病院清掃・環境整備」と書かれてあり、京都第二赤十字病院に於いて、ホスピタル・メンテナンス側の役割が非常に重要であり、またそのことをしっかりと認識されているのかがわかります。素晴らしい関係性です！そして、きっちり守っていれば恐れることはない、ということです。

感染対策の三本柱

- ① 手指消毒
- ② 抗菌薬の適正使用
- ③ 病院清掃・環境整備

※COVIT-19対策としての特別な清掃手順が存在するのではない
病院の日常清掃と同じである。